

気仙沼と大島を結ぶ「気仙沼大島大橋」 開通式&渡り初め



供用開始前に開通式や渡り初めが行なわれた。宮司を先頭に大島住民が続く。

(トコヘルWatchより) 宮城県が東日本大震災からの復興のシンボルと位置づける「気仙沼大島大橋」が4月7日15時に開通する。気仙沼大島大橋は、東日本大震災時に大島地区の住民が長時間にわたり孤立を余儀なくされるなどしたことから、復興のシンボル事業として2011年(平成23年)に着手した。

地元選出の国会議員である小野寺五典氏は、「多くの人はち是对岸でただ家族の安否をずっと祈るしかありませんでした。その後数日してようやく大島の状況が分かってきましたが、水道もガスも電気もすべてない。そして、海というのは津波でガレキが押し寄せると、ロープ一本浮いていても船は走れなくなります。孤立していることを、これほどつらく思ったこと、これがあの瞬間だったと思います。」と、その思いを強く語った。

この後、15時から気仙沼大島大橋は共用を開始し、大島汽船の大島航路(気仙沼工入スポーツ×大島・浦の浜)は4月7日の最終便で営業を終える。4月8日から気仙沼と大島は気仙沼大島大橋を使ったバスで結ばれていく。

(谷川潔/抜粋は文責による)

震災で生じた水域で「川えび」の新種発見

(大学ジャーナルオンライン編集部より) 東京農業大学、千葉県立中央博物館、首都大学東京、NPO法人「森は海の恋人」(宮城県気仙沼市)からなる研究グループが、気仙沼市の河川でエビ類(十脚目甲殻類)の新種を発見。国内在来の淡水性種として2種目になる。

研究グループは、東日本大震災の津波と地盤沈下によって創出された湿地とその周辺水域の保全を主目的とした調査の一環で、2012年から宮城県気仙沼市において底生動物(ベントス)相のモニタリングを行っている。その過程で、東京農業大学の加藤木侑一博士後期課程1年生が、スジエビ属に分類されるが、これまでに報告のない形態的特徴を持ったエビを採集した。

このエビは国内に広く分布するスジエビ属のスジエビ、いわゆる「川えび」に形態的に酷似するが胸脚のハサミ部がスジエビよりも長い。千葉県立中央博物館の駒井智幸博士が標本を精査した結果、新種と判明。学名は北海道から東北地方という「北方の」分布を考慮し、「キタノスジエビ(*Palaemon septemtrionalis*)」とした。

論文情報: [Zootaxa] A new freshwater shrimp species of the genus Palaemon Weber, 1795 (Decapoda:Caridea: Palaemonidae) from northeastern Japan



we support!

RQ
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランテイアに来たよ」という
意味である

復興支援「すけさきた」

しんぶん

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランテイアに来たよ」という
意味である

APRIL
11
2019



13年ぶりに新しい地図記号「自然災害伝承碑」掲載へ



記念碑 自然災害伝承碑



昨年7月の西日本豪雨で被害があった広島県坂町の自然災害伝承碑(国土地理院提供)

(3月15日、朝日新聞デジタル) 国土地理院は15日、新しく「自然災害伝承碑」の地図記号をつくり、掲載することを決めた。新しい地図記号ができるのは、2006年の「風車」と「老人ホーム」以来13年ぶり。6月からウェブ版、9月からは紙の地図に反映される見通し。

過去に起きた津波、洪水、火山災害、土砂災害などの自然災害の情報を伝える石碑やモニュメントを表す記号。これまで「記念碑」に含まれていたが、多くは未掲載だった。

昨年7月の西日本豪雨で被災した広島県坂町にも100年以上前の水害の石碑があったが、地図に載っておらず、住民に十分に防災意識が伝わっていなかった。こうした反省をふまえ、地図記号をつくることにしたという。

6月には、西日本豪雨の被災地で石碑など約20カ所を載せることが決まっており、東日本大震災などの被災地も順次加える予定。地形図へ反映させるには、市区町村が郷土史などの裏付け資料や写真とともに、所定の様式で地理院に申請する必要がある。(賢川俊)